

第3回世界気候会議（WCC-3）概要

日程： 2009年8月31日～9月4日

専門家会合

8月31日～9月2日

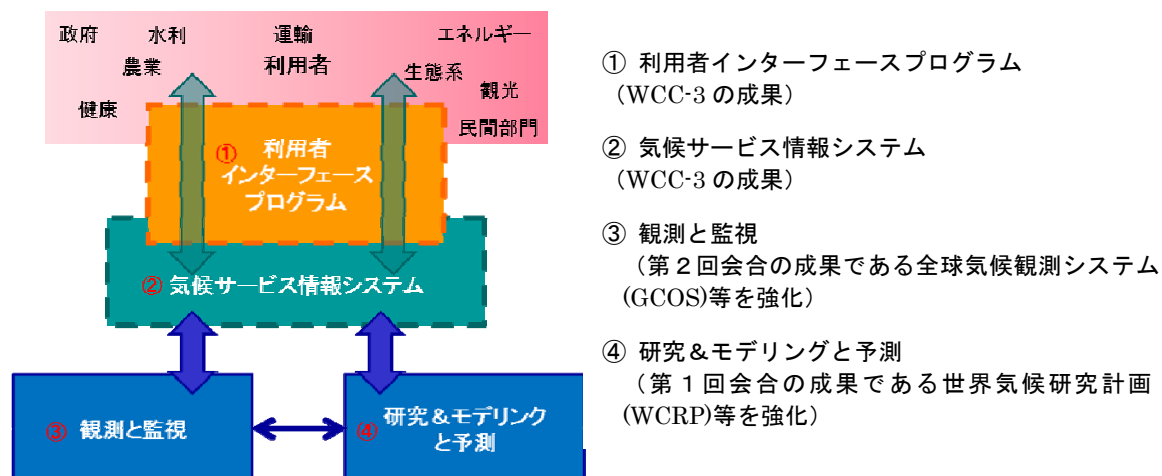
ハイレベル（首脳・閣僚）会合 9月3日～4日

場所： スイス・ジュネーブ

目的： 気候予測など、気候に関する科学的な情報（気候情報）の活用促進を通じ、気候変動への適応策をはじめ、「あらゆるレベルの政策や意思決定」に気候情報を役立てる

主催： 世界気象機関（WMO）

成果： 気候情報の提供者と利用者の双方向の連携を世界規模で図る「気候サービスのための世界的枠組み（GFCS：Global Framework for Climate Services）」の構築の決定



「気候サービスのための世界的枠組み（GFCS）」の想定される構成要素

（参考）

○第1回世界気候会議（1979年・ジュネーブ）

各国に対して人類の安寧を妨げられると思われる人為的な気候変化の予見とその防止策の早急な実施を求め、世界気象機関（WMO）内に気候関係部局を設置。これが「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の設置につながった。

○第2回世界気候会議（1990年・ジュネーブ）

気候変動枠組条約（UNFCCC）の交渉作業にあたっての共通の基本認識を提供し、条約交渉の開始につながった。また、気候監視のための世界的枠組み（全球気候観測システム：GCOS）を設けた。英サッチャー元首相他、各国閣僚級が多数参加。

○「気候情報に関する東京会議」（2009年7月6日～8日・主催：気象庁）

WCC-3に向け、アジア太平洋地域における気候情報に関する幅広い関係者の連携強化が確認された。